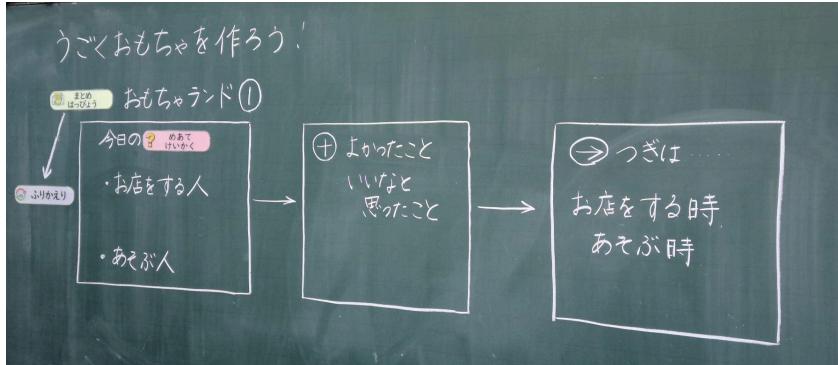


10月9日 2年生 生活「うごくおもちゃを つくろう」

みなさん、ぜひ2年生の実践を参考にしてほしいです！昨日の市教研講演会の木村泰子先生のお話にもいろいろつながるなあと思って記録をとっていた吉水です。

1. 今日の流れ提示 今日の見通しをもつ ために。

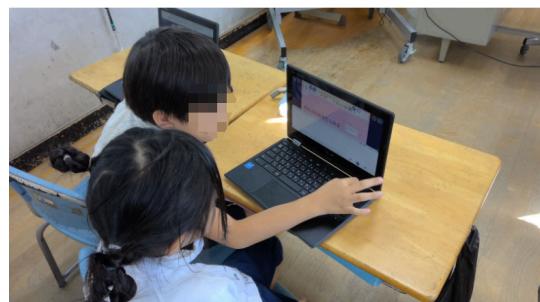


★クラスづくり

困っている子を支える「空気」

中国から転入のMさん。クロームブックの充電切れで止まっていました。それを察知した両隣のAさん、Kさんがさっと寄って、声をあげてくれます。

もちろん、Mさんに「困ったときには、自分から『たすけて』と声をかけることが大事だよ。」という指導も添えますが、何よりこの自然なる支え合える空気が当たり前になっている2年生は、どの子も安心して学べるなあと感じます。だって、いつ私が入ってもこの場面が見られるからです。



(担当のつぶやき)

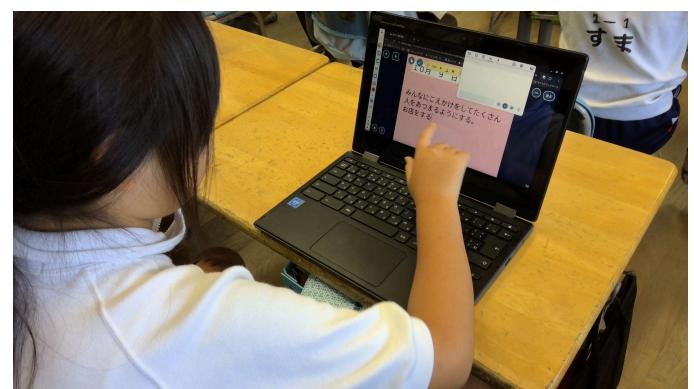
前にも取り上げましたが、この空気は、勝手に育ちません。担任の先生がていねいに種まきをし、水やりをし、花を咲かせています。興味をお持ちの方は、どんなふうにされているか、直接先生に聞いてみてください。きっと謙遜されながら快く教えてくださいますよ。

2. 自分でめあてを立てる

2年生の段階でも、自分でめあてを立てる経験を積んでいます。ここにも、主体性を育んでいくヒントがありそうです。



「ぜんぶのみせを まわる」



「みんなにこえかけをして、人があつまるようにする」



「いいお店やさんをみつける」

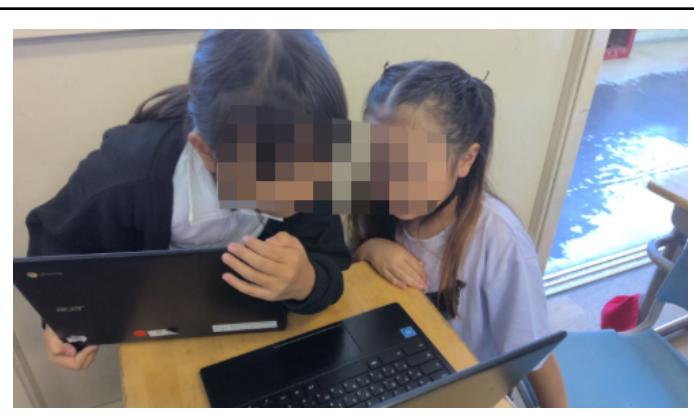


「みんなをよろこばせる。たのしくがんばる」

★多様性

入力の仕方も多様です。タイピングができる子もいれば、手書き入力や音声入力もいます。紙に書いている子もいます。授業者としては、1つの方が把握しやすいので紙かデジタルか1つに寄せて しまいがちですよね。ここでも、「紙で書きたい人は紙に書いてもいいよ。」と、子どもに応じ て自己決定させています。先生が主語ではなく、子どもが主語の入力方法。自分に合った学び方 を認める「空気」は、まずは先生(おとな)がつくるんですね。

3. 自分の決めた「めあて」を言い合う





ちゃんとアウトプットしています。

短い時間で。リズムよく。

子どもたちは、すでに慣れています。

たまにありますよね、研究授業の時だけの〇〇。

子どもも感じていますが、見ている方もちやあんと見抜けますよね(苦笑)

ここでも、めあてを決めきれない子に、「いいなと思うものはマネしていいよ」との声掛け。

どこまでも、やさしい。

4. 何のために〇〇してるの？

先生 「いま、動画をここにいれてもらってるけど、なんでここ(ロイロノート)に動画を入れてるの？」

子ども「だって…」

先生 「みんなが教えて！」(全員に話させる)

子ども(口々に先生に向かって説明している)

子ども「わかりやすいから。」

子ども「だって、説明した時に、動画があるほうがわかりやすいから。」

(担当のつぶやき)

活動の意味を2年生の子でも、しっかり受けとめて学べます。

昔、先輩から「授業者は、すべての活動の意味を語れるように。」とのアドバイスを受けました。

その意味を伝えていきながら、進めておられます。

5. 第1回おもちゃランド

お店担当の人と遊び担当に分かれて、第1回のおもちゃランド。

動画は貼れないので、もしよければリンクから飛んで見てください。

動画 Q:\【教員用データ】\2025\学年(1~8年)\2年\10月 おもちゃランド

↑ の部分をコピーして、検索してもらえば見られます。



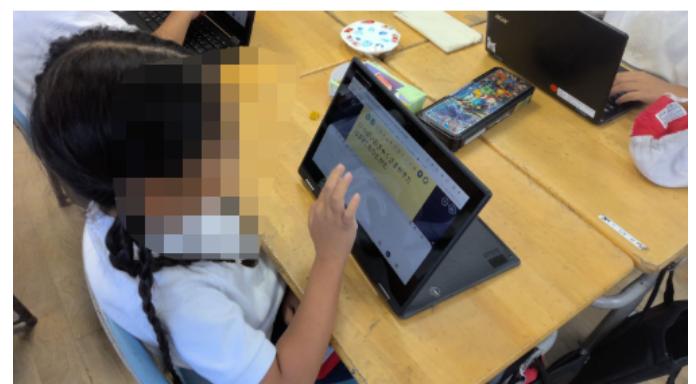
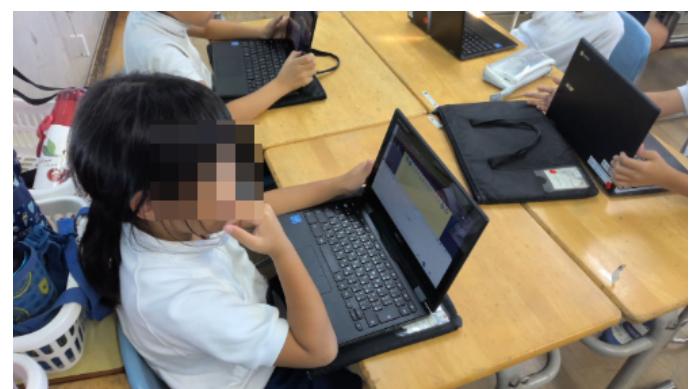
6. ふりかえり

先生 「みんな、どうだった？」

子ども「おもしろかった――――！」

先生 「お店の人と、あそんだ人とでは、かんじたことがちがいます。あそんだ人は、やってみて、あー、こんなふうにやったら、おもしろくなるんだーとか、こんなことマネしよう、

心にあるかんそうをロイロノートのふりかえりに かきましょう。かみに書く方がはやい とい
う人は、かみをとりにきてください。どっちでも構いません。」



+ よかったこと・くふうしたこと → つぎはこうしよう

いっぱいおきやくさまがきた
はまつたひとがいた
いいおみせになった
みんなよろこんでた

→ あそぶときはたのしくあそぶ

+ よかったこと・くふうしたこと → つぎはこうしよう

いっしょにいくから
きたからうれしかった

→ つまらないはいは
いはされたーから
つまらぬことはないよ

+ よかったこと・くふうしたこと → つぎはこうしよう

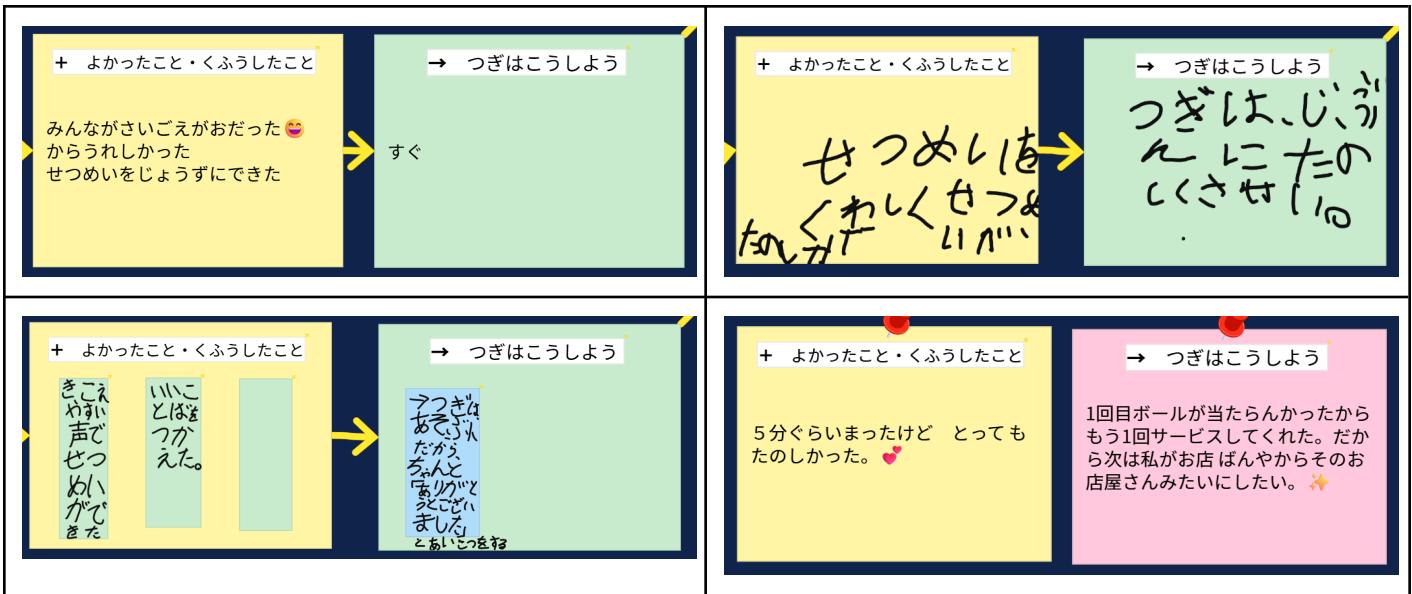
とうきょうタワーをしたかったけど
チャイがなったからできなかった

→ つぎは、みのるがやっていた2こおもちゃをだす。

+ よかったこと・くふうしたこと → つぎはこうしよう

.きょうのおもちゃランド
でボーリングやできてた
のしかった

→ .つぎはおみせの人だからきょうみ
せしてた人みたりにしたい



(担当が感じたこと)

2年生の姿を見ていて、つくづく「学びが楽しい」は最強だと感じます。

これまで2年生で学んできた話の聞き方も、国語で学んだ説明の仕方も、友だちと話し合い、教え合う活動も、すべてこの「学びが楽しい」につながります。

私が感じるのは、楽しいをめざすというより、学ぶ過程が楽しいということ。

2年生でも、ていねいにていねいにノートの書き方、話の聞き方、伝え方、いろんな場面できっちり指導されています。しんどいことがあっても、楽しいこともあるから、がんばれる。大人だってそうですね。ご自由に…。何でもよし…。預けておけばいい…。では、子どもたちは育たない。自己決定するために、自己表現するためには、各教科での基礎的な学び方、学ぶスキルが必要ですから、知らないことは教えながら、子どもの姿を価値づけながら、楽しみながら…。

(担当と担任先生の会話)

そして、そんな授業チャレンジをしている担任の先生に話を聞くと、「本当にこれでいいのか、教えすぎてないか、いつもいつも自問自答、迷いながらやっています。」とのことです。そうなんですね！？！ベテランの先生でも、迷いながらやっているんですね。若手の先生も、中堅の先生も、みんなにとって新しいことをしているのですから、迷って当然。悩んで当然。むしろ、その正解を探し続ける過程に価値がある気がしてなりません。

(担当のつぶやき)

さて、最近紹介させてもらった5年生の若手二人チームも複数教科での「委ねるチャレンジ」。

2年生の〇〇先生も、こうして考え考え、チャレンジしている姿を見させていただいて、子どもたちだけではなく、門真小学校全体に心の火が灯ってきたと感じるのは、私だけでしょうか？？



